

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

| | |
|------------------------------|---|
| 名称：パレット保育園・大倉山 | 種別：認可保育所 |
| 代表者氏名：成田 有香 | 定員（利用人数）： 80（80）名 |
| 所在地：〒222-0001 横浜市港北区樽町1-13-3 | |
| TEL：045-859-9149 | ホームページ： https://p-hoiku.com/ |
| 【施設・事業所の概要】 | |
| 開設年月日：2018年4月1日 | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社理究 | |
| 職員数 | 常勤職員： 24名 非常勤職員 1名 |
| 専門職員 | 施設長 1名 保育士 19名 |
| | 栄養士 1名 調理員 4名 |
| 施設・設備 の概要 | 居室数： 6室 設備等 |
| | 事務室、給食室、相談室、倉庫、更衣室、子ども用トイレ、多機能トイレなど |

③理念・基本方針

- 1, ひとりひとりを大きな家族の一員として認め、役割を認識させ、愛情を持って育てます。
- 2, 一人ひとりの子どもを見極め、発達段階に応じ、「感性・知性・体力を培う」三位一体のバランス保育・教育を信条として育てます。
- 3, ひとりひとりが意欲的な生命力を発揮できるよう「自立と自尊と自律」の精神を大切に育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組

東急東横線大倉山駅から徒歩10分ほどの商業施設の2階にあり、屋上は広々とした園庭があります。大きな道路に面している環境ではありますが、近隣には多くの公園もあります。近隣には小学校や保育園、幼稚園もあり、連携を取りながら交流などを行っています。

30年近く「全脳教育理論」に基づく「どんちゃか式幼児教育」を実践してきました。お子様を単にお預かりするだけでなく、幼児教室のノウハウを基として、しっかりとしたカリキュラムや教材を活用とした指導を展開しています。大切なお子さまだからこそ、「感性を磨き、知性を育み、体力を養う三位一体のバランスのとれた保育」で、人間としての土台を築いていきます。また、「縦割り」保育と「横割り」保育の組み合わせた保育環境のなかで、楽しく遊んでたくさん学び、思いやりの心やリーダーシップを育てます。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|---|
| 評価実施期間 | 2025年5月20日（契約日） ～ 2026年2月6日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 1 回（ 2020年度） |

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆子どもたちは、保育士に見守られてのびのびと活動に取組み園生活を楽しんでいきます

保育士は、一人ひとりの子どもを受容するよう努めています。幼児クラスでは子どもの普段の様子を観察し、うまく言葉で表現できない子どもの気持ちを共有し、声掛けなどを行うことで安心して表現できるよう配慮しています。乳児クラスでは子どもが気持ちや意志を表現できるよう愛着関係を築き、優しく問いかけ思いを汲み取ろうとしています。子どもが自主的に遊びを選択できるよう配慮し環境を整え、床に座り込んで遊ぶ子どもや着席して集中して遊ぶ子どもの姿が見られます。遊びに入れない子どもには、保育士は様子をみながら好きな遊びが見つかるよう声かけして見守っています。

園は、年間を通して3歳児から5歳児の縦割り保育を実施しています。年度初めは5歳児と3歳児がペアを組んで一緒に活動することで3歳児が環境や活動に慣れる手伝いをし、5歳児が憧れと共に安心できる存在になっています。また、4歳児は時には援助してもらう側であり、時には援助する側と両方の立場を経験しながら自分のできる力を発揮しています。5歳児は発表会では、主役となって振付けなどを担当し、運動会ではクラスの応援をするクラス旗を作成するなど協力して一つのことをやり遂げる経験を積むことで子どもたちの成長が「大きな家族」を実現しています。

◆保育士は、日々の活動が子どもの興味・関心を広げ、想像を膨らませる保育に展開しています

保育士は子どもたちの楽しみがふえる体験をして欲しいと様々な企画をし、子どもの意見を聞きながら準備をしています。訪問日は勤労感謝の日から、労働と対価を経験して欲しいと「お店屋さんごっこ」を実施しました。車、スイーツ、パン、クレープなど子どもたちの発案でお店を決め、準備期間に制作し、当日は貨幣も用意して、買い手と売り手を経験し、制作や売る労働で対価を得る体験をしています。また、食育では屋上での野菜栽培やクッキングのほか、「にわとりDAY」と称して段ボールでにわとりを制作し、卵が産まれる様子を再現しています。この体験から粘土でのとり料理や焼き鳥作りなどにも発展しています。さらに、魚は「切り身」しか知らない子どもが多いので一匹の鮭をさばいたり、大きな牛を制作しゴム手袋の乳房で乳しぼりの体験をするなど、子どもの興味が増えるよう努めています。職員は、子どもたちが小さい時から充実した日常を過ごし、日々の満足からやりたいことがやれることで自己発揮できる保育を実施しています。

◆職員は互いの考えを尊重し、意見交換を積み重ねてより良い保育の実施に努めています

毎週行われるクラス会議は職員全員が参加できるよう園全体で時間を調整し、施設長、副施設長、チーフ保育士の何れかが同席することで、クラスの様子や現状を把握すると共に、職員の要望もその場で判断しています。また、発言が少ない保育士に声かけし、意見を聴くなどのフォローができています。施設長は、会議の様子から必要に応じて個別のミニ面談を実施し、アドバイスや相談をしやすい体制を作っています。個別のミニ面談は年度初めの3か月は全職員に毎月行い、クラス運営に慣れてきたころから隔月にしています。さらに、保育士は「自分を『知ろう』チャート」をグループワークで行い、自分について考え、他者との共感できる所を知る機会を得て、園全体の保育改善につなげています。

◆理念の実現に向けて職員に中期事業計画や事業計画、事業運営の周知が期待されます

園は朝礼や昼礼、クラス会議と情報を共有して、保育の質の向上に努めていますが、一方で職員が中期事業計画や園の事業計画の策定、事業経営に関する取組、地域など保育以外の項目に関して理解が十分ではない状況が確認されました。中期事業計画や事業計画は、理念や基本方針の実現に向けた目標を掲げ、具体的に取組んでいく計画です。理念の実現に向けて、今後さらに職員への理解を深めることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受審するにあたり、職員への丁寧なご説明をいただき、職員ひとりひとりが園について真剣に向き合うよい時間となりました。現在も毎週、各クラスについてのクラス会議は続けていますが、全職員で園全体のことを見直し、現在の課題点や改善点だけでなく、園の強みを共有することができました。また、同時に職員の思いや考えを知ることもできるよい機会となりました。

今回いただいたアドバイスをもちに、今後も保育の質の向上を努め、地域社会のなかでの保育園の役割を再認識し、よりよい保育園を目指していきたいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり